

徳島県南部医療圏における  
地域医療体制の確保・構築に向けて

# 公的病院と民間病院の 再編・統合例について



AI/TOKUSHIMA

徳島県 保健福祉部

平成30年5月28日 都道府県会館

# 徳島県 地域医療構想区域の概要

- 医療圏と構想区域は合致しており、東部圏域、南部圏域、西部圏域の3圏域。
- 面積割合が24.5%の東部圏域に人口の約70%が集中。

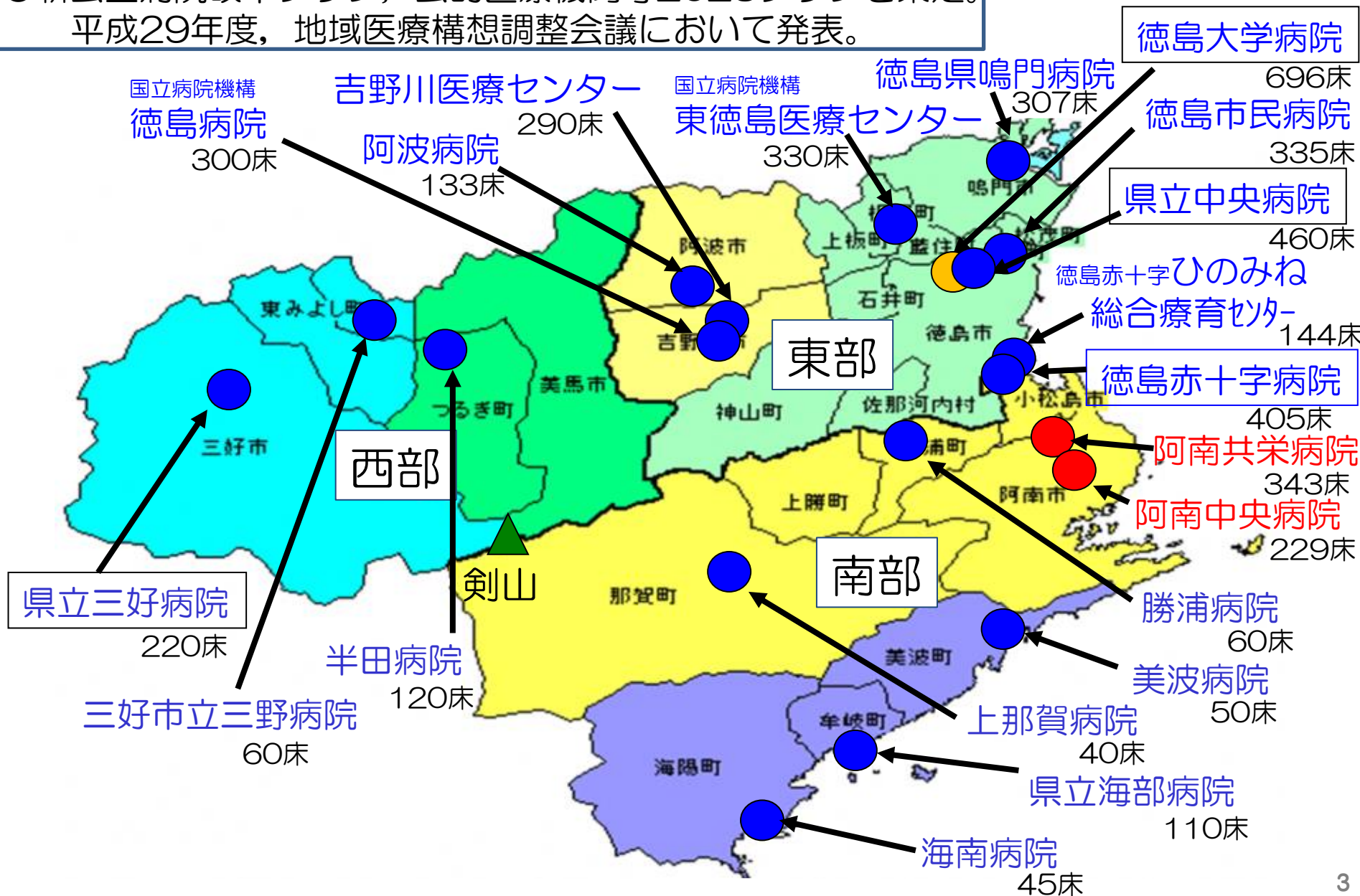


構想区域	構成市町村数	圏域人口(人)と割合		圏域面積(km <sup>2</sup> )と割合	
東部	12	527,175	69.8%	1,016.64	24.5%
南部	8	147,656	19.5%	1,724.13	41.6%
西部	4	80,902	10.7%	1,405.88	33.9%

(平成27年10月現在)

# 徳島県内の公立病院・公的病院の概況

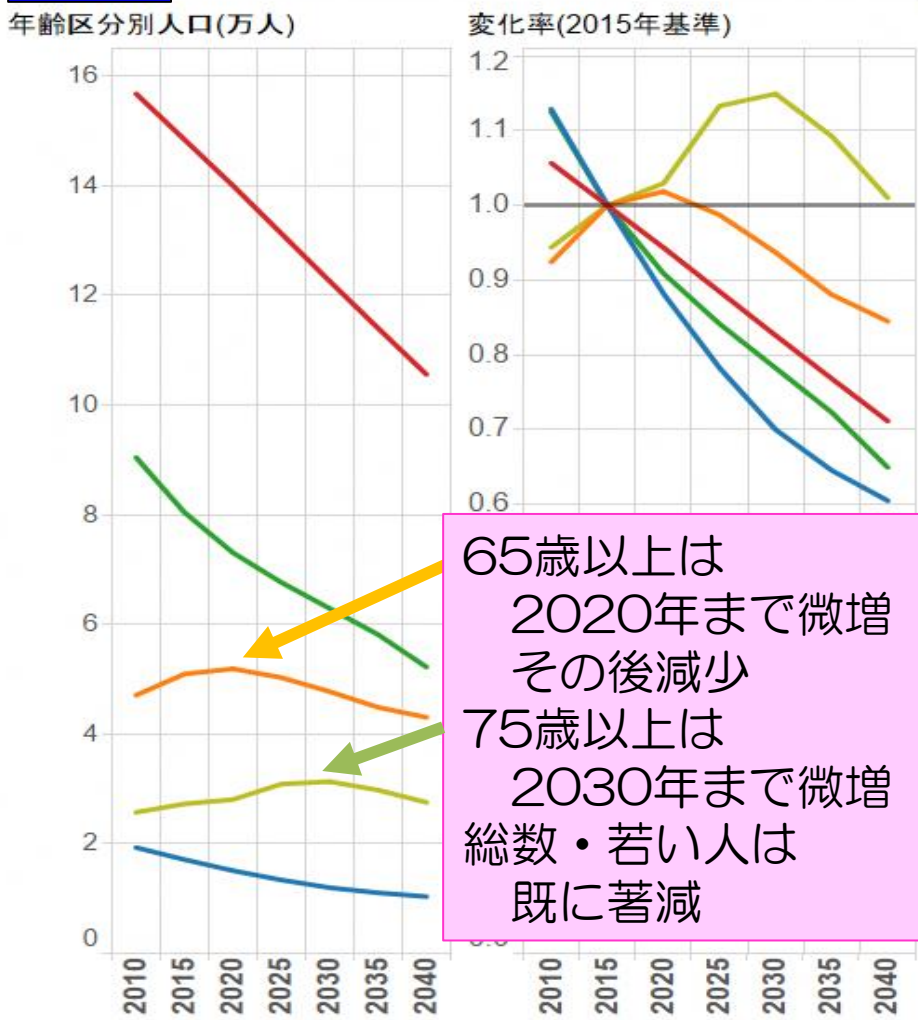
○新公立病院改革プラン，公的医療機関等2025プランを策定。  
平成29年度，地域医療構想調整会議において発表。



# 人口・入院患者数の変化（推計）【南部圏域】

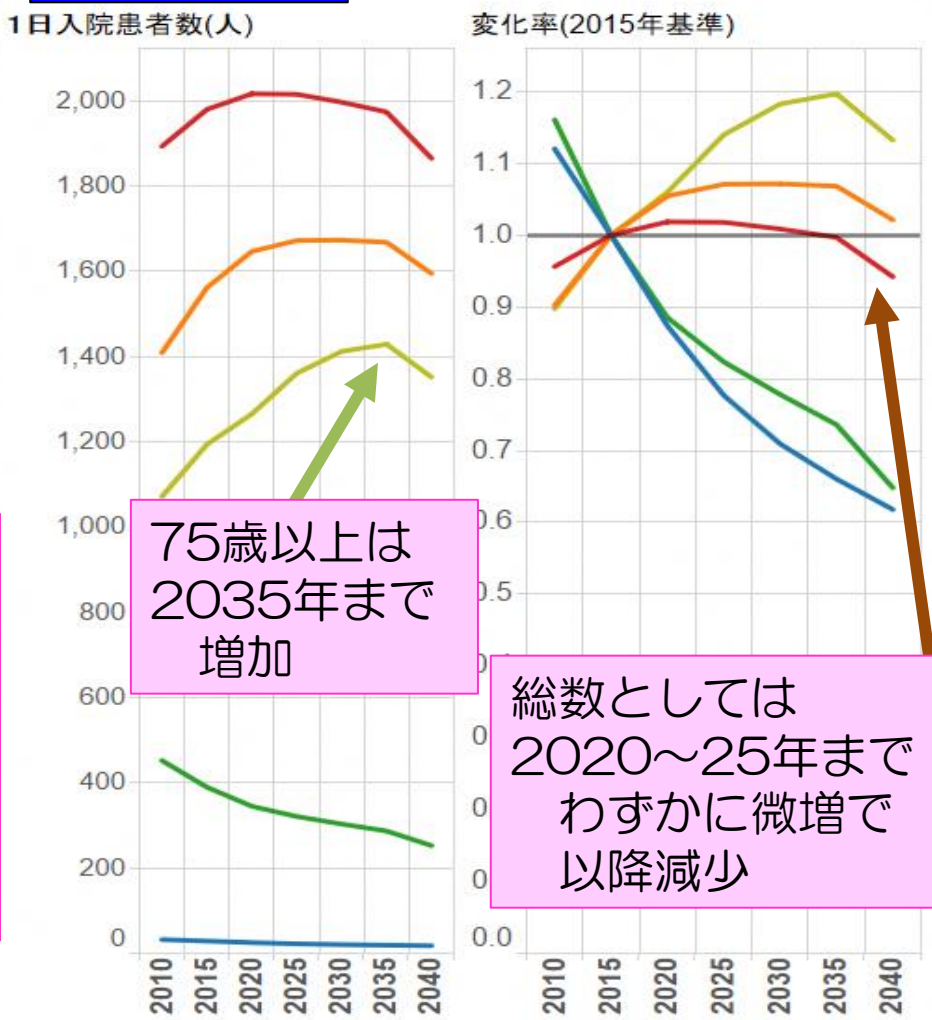
- 2025年までの人口の変化率は、総人口で0.88、65歳以上で0.99、75歳以上で1.13。
- 2025年までの入院患者数の変化率は、総人口で1.02、65歳以上で1.07、75歳以上で1.14。

## 人口



65歳以上は  
2020年まで微増  
その後減少  
75歳以上は  
2030年まで微増  
総数・若い人は  
既に著減

## 入院患者数



75歳以上は  
2035年まで  
増加

総数としては  
2020~25年まで  
わずかに微増で  
以降減少

# 公的病院と民間病院との再編・統合例

## 「JA阿南共栄病院」と「阿南医師会中央病院」の統合

### 【特徴・モデル性】

- 1 公的病院（JA病院）と民間病院（医師会病院）との「再編・統合」
- 2 運営主体は公的（JA徳島厚生連）、施設は民間病院を継承した再編
- 3 病床縮小率は30.4%（572床（343+229）→398床）
- 4 地域医療構想に基づき、地域のまちづくりと一体型の医療機関を整備（県の病床機能分化・連携の取組＋地元自治体の支援＋地域医療介護総合確保基金の活用）

### JA阿南共栄病院



- 耐震性なし
- 老朽化  
→施設閉院へ

1 一般病床	303床
2 回復期リハ	40床
	合計343床

### 阿南医師会中央病院



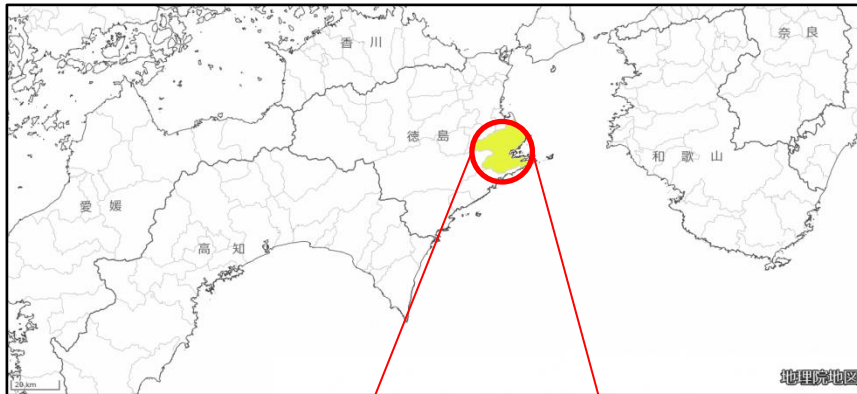
H23耐震強化  
済み  
医療施設耐震化  
基金  
4.6億円

1 一般病床	149床
2 地域包括ケア	30床
3 療養病床	50床
	合計229床

# 検討に至った背景

- 両病院の課題解決のために
- 阿南市のまちづくりとして「地域包括ケア」の中心となる基幹病院の必要性
- 徳島県全体の公的病院の再編の中で

## 徳島県阿南市



★ 阿南共栄病院

★ 阿南医師会中央病院  
(現・阿南中央病院)

## 阿南共栄病院

- 一部施設において耐震化できていない。
- 医師の高齢化。



## 阿南医師会中央病院

- 深刻な勤務医不足により、救急診療を一部休止 (H21.4~)
- 医師の高齢化。



※「阿南医療センター」は阿南中央病院敷地を拡張して開院。

# 経緯

H21.12.21	阿南市医師会、JA徳島厚生連、阿南市の3者で「阿南市の地域医療を考える会」を設置
H25.11.22	阿南市医師会、JA徳島厚生連、阿南市の3者で「阿南中央医療センター(仮称)設立に向けての覚書」を締結
H25.12.20	「阿南市地域医療確立対策協議会」が発足
H26. 4.11	「阿南中央医療センター(仮称)基本構想」を策定
H26.12.15	「阿南中央医療センター(仮称)基本計画書」を策定
H27.10. 6	阿南市医師会、JA徳島厚生連、阿南市の3者で「阿南中央医療センター(仮称)設立に向けての基本協定書」締結
H28. 3.31	阿南市医師会からJA徳島厚生連に事業資産を譲渡
H28. 4. 1	阿南市医師会からJA徳島厚生連に経営権を譲渡
H29. 5. 1	「阿南医療センター」新築工事起工式挙行

平成31年春 「阿南医療センター」開院に向けて工事進行中。

【参照】阿南市のホームページから・・・「シリーズ地域医療の明日を考える」  
広報あなん：2014年7月号、2015年3月号、2017年6月号

# 検討過程での課題と方策

- 両病院は異なる運営主体
- 統合にかかる巨額の事業費

- 阿南共栄病院はJA徳島厚生連、阿南医師会中央病院は阿南市医師会が運営主体で、経営理念や運営形態が異なる。
  - ・阿南市医師会、JA徳島厚生連及び阿南市の3者で、「阿南中央医療センター（仮称）設立に向けての覚書」を締結。
    - ◆「阿南市医師会は、阿南医師会中央病院の土地、建物等の資産及び経営権等をJA徳島厚生連に譲り渡す事とし、その時期及び方法等については、今後、3者が協議を行う。」
    - ・阿南市医師会が、中央病院の資産（一部用地を除く）及び経営権をJA徳島厚生連に譲渡。
- 統合にかかる総事業費は約105億円。  
(当初は98億円。建設需要の高まり等により、建設工事費が増額。)
  - ・阿南市が総額41億円を上限として補助。
  - ・地域医療介護総合確保基金を活用し、徳島県が総額35億円（予定）を補助。



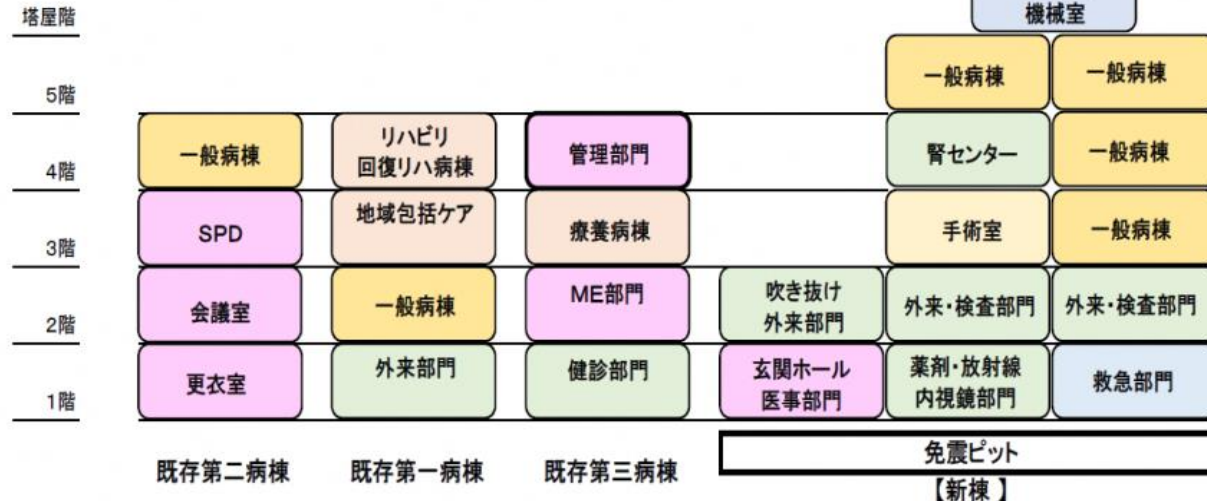
# 実施計画における「ねらい・特徴」

- 両病院の機能の集約化
- 「地域完結型医療提供体制」の実現

- 両病院が有していた、「地域医療支援病院」、「救急告示病院」、「災害拠点病院」、「臨床研修病院」等の機能継承。
  - 阿南市医師会員診療施設との連携を密にし、病診連携・病病連携を推進。
  - 24時間・365日の患者受入体制の整備。
  - 大規模災害に備えた「屋上ヘリポート」の整備。
- 両病院の有する病床を集約。  
(共栄343床+中央229床→阿南医療センター398床)
- 南部医療圏の医療機関で初となる「緩和ケア病棟」の導入。
- 集中的なリハビリテーションによる早期の回復や在宅復帰を目指すとともに、訪問看護や訪問リハを充実化。

# JA徳島厚生連「阿南医療センター」

## 階層図

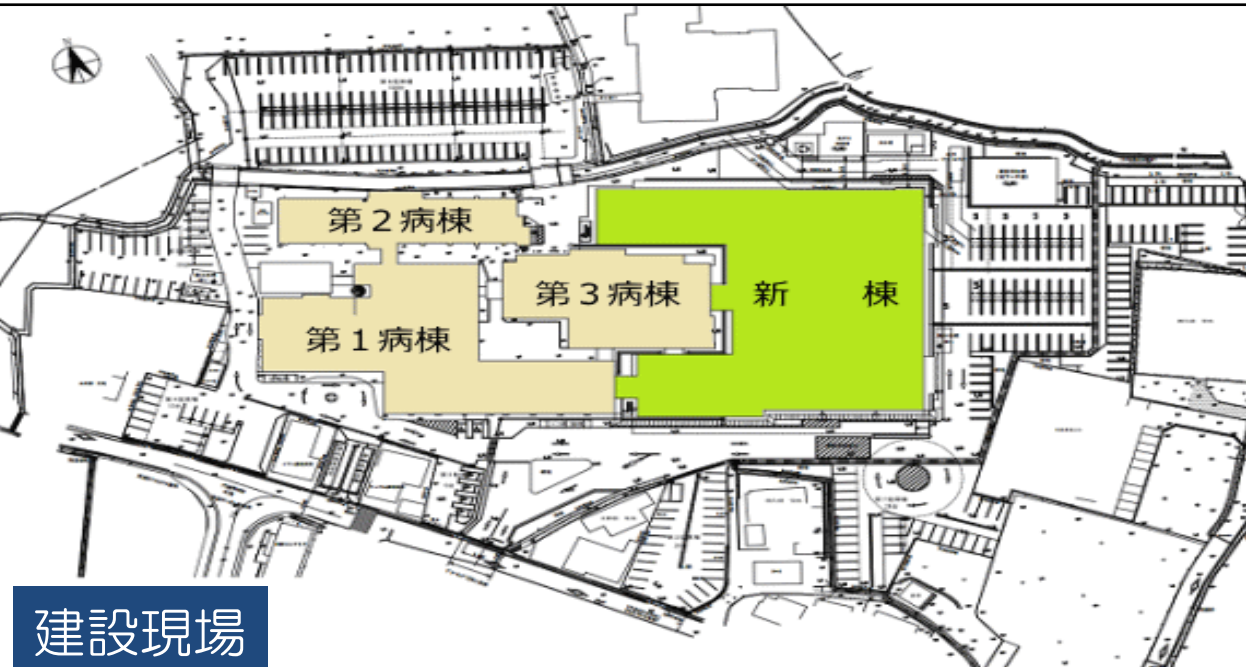


## ◇ 阿南医療センターの診療科目

阿南共栄病院と阿南中央病院における既存の診療科目を再編・統合するとともに、総合内科、呼吸器内科、緩和ケア科を新設の診療科として整備する。

阿南共栄病院	阿南中央病院	阿南医療センター	
内科	内科	総合内科	※1
糖尿病内科・代謝内科	糖尿病内科	(糖尿病・代謝内科、神経内科、薬方内科、リウマチ科、血液内科、外来化学療法科は院内標榜)	※2
消化器内科	消化器内科	消化器内科	
循環器内科	循環器内科	循環器内科	
		呼吸器内科	※1
小児科	小児科	小児科	
外科	外科	外科	
消化器外科	消化器外科	消化器外科	
肛門外科		肛門外科	
	乳腺外科	乳腺(甲状腺)外科	
	呼吸器外科	呼吸器外科	
	心臓血管外科		
脳神経外科	脳神経外科	脳神経外科	
整形外科	整形外科	整形外科	
産婦人科	婦人科	産婦人科	
耳鼻咽喉科		耳鼻咽喉科	
眼科		眼科	
皮膚科		皮膚科	
形成外科		形成外科	
泌尿器科	泌尿器科	泌尿器科	
放射線科	放射線科	放射線科	
麻酔科	麻酔科	麻酔科 (麻酔集中治療科)	
リハビリテーション科	リハビリテーション科	リハビリテーション科	
	病理診断科	病理診断科	
		緩和ケア科	※1
		(外来化学療法科は院内標榜)	※2

※1は新設の診療科。※2は院内標榜の診療科。



## 建設現場

# 公的病院と民間病院との再編・統合例

## (JA徳島厚生連) 阿南医療センター

- 機能分化  
(病床削減、慢性期も確保)
- 地域完結型医療機関への転換  
(病診連携の推進等)
- 医師会病院を無償譲渡  
(社会資本の有効活用)

### 新病院の備える機能

- 1 地域医療支援病院
- 2 救急告示病院 (輪番)
- 3 災害拠点病院
- 4 地域がん診療連携推進病院
- 5 臨床研修病院 等

地元 阿南市等が全面支援

平成27年6月  
基本・実施設計に着手



1 一般病床	263床
2 緩和ケア病床	15床
3 地域包括ケア	30床
4 回復期リハ	40床
5 療養病床	50床
合計398床	

21世紀の  
地域完結型医療  
モデル

平成29年4月着工 (建築工事)  
→平成31年春 開院予定



AI/TOKUSHIMA

今後とも、病床機能の分化・連携の推進、  
在宅医療介護連携推進に取り組み、  
地域医療提供体制の確保、  
地域包括ケア推進に努めて参ります。



平成30年5月1日現在  
阿南医療センター 工事進捗状況  
(JA徳島厚生連のホームページより)